

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0196400063), 法人名 (有限会社 横木介護サービス), 事業所名 (グループホーム あふんの里), 所在地 (増毛郡増毛町阿分224番地の9), 自己評価作成日 (平成25年9月2日), 評価結果市町村受理日 (平成25年10月16日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあふんの里は、雄大な暑寒別岳や日本海に囲まれ、自然に恵まれた環境に位置しています。あふんの里がある阿分地区は民家が点在し、その周りには畑が広がっていて、地域の皆さんとは顔なじみの方も多く、代表者や職員も居住し、いつでも支援できる体制になっています。ご利用者様の皆様は、外出や散歩を通して草花の美しさを感じたり、畑の野菜の成長を楽しんでいます。ご近所さんより、新鮮な野菜や魚の頂き物も多くご利用者様より知恵を頂き、職員と一緒に調理をしています。皆さんはあふんが大好きです。大好きなあふんの里で自分らしく生き生きと安心して暮らしていけるよう、職員共通の思いをもって日々介護させて頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0196400063-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成25年9月24日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は増毛町の北東に位置した自然あふれる阿分地区にあり、平屋建て1ユニットのグループホームである。事業所の窓からは、日本海や雄大な暑寒別岳が眺められ、自然に囲まれて安らぎを感じる。事業所内は廊下が幅広く、採光や風通しもよい。ベランダにはウッドデッキがあり、何時でも外気を感じられ快適に過ごすことができる。また、居室には、洗面台やトイレを設置してプライバシーの確保と排泄の自立を支援する設備がある。入居者は地元の方が多く、事業所の理念として「入居する一人一人の思いは、住み慣れた増毛で自分らしく、生き生きと暮らしたいと願っています」と謳っているように、職員は入居者ひとり一人に寄り添ったケアを実践している事業所である。法人全体の事業として、有料老人ホームや訪問介護事業所を運営して地域の高齢者を一貫してサポートしており、これからも期待したい事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印, 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印. Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をふまえ、職員全員が日々実践の取り組みをしている。職員が現況を毎日確認でき、来訪者にも見て頂けるよう玄関に提示している。	事業所の理念である入居者が「住み慣れた増毛で自分らしく、生き生きと暮らす」ため、職員が理念を共有し、一人ひとりの思いを尊重して日々ケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元小学校の行事や町のお祭りに参加し、地域の人との交流を深めている。	地域行事の増毛祭りや花火大会などへ参加したり、法人本部主催の縁日や事業所主催の餅つき・クリスマス会に地域の方が参加したり、地域の一員として相互の交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加して頂きながら、認知症の方々の事を理解して頂けるように、スタッフが方法を実践している。運営推進会議の中でもご利用者様の紹介をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーは、ご利用者様家族、町内会、民生員役員、町の担当職員、地元小学校の校長先生と幅広い方々に参加して頂いている。行事等、現状の活動内容の報告、ご利用者様の紹介を行い、参加者の方々より貴重なアドバイスを頂いている。	運営推進会議は、町の担当者や民生委員、家族や幅広い分野の地域代表の方などが参加して、定期的に開催しており、事業所の運営状況の報告や意見などを聞き、事業所のサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーの一員として、毎回参加して頂き、貴重なアドバイスを頂いている。加えて、町がOT・STに依頼し町内でのリハビリ訓練を実施。ご利用者様に対して当施設でもリハビリの評価をもらい、生活の質の向上につなげている。	運営推進会議に、町の担当者が参加しており、事業所の運営状況の報告を行いながら、運営やケアに関する助言などを頂き、協力関係が構築できるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしているご利用者様に対し、毎日少しの時間でも外す取り組みを行っている。その時間やその時の様子を別に記録。毎月、ミーティングにて身体拘束の是非について検討している。	身体拘束委員会を設置して、マニュアルを整備し、毎月1回研修会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。止むを得ず身体拘束をする場合は、同意書を用意して、必要最低限度に留めるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者様の立場になり、支援できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などが開催された時に参加し、制度などの理解を深めたいと思うが、学ぶ機会が少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、ご利用者様及び家族に対して、わかりやすく十分な説明を行い、質問や疑問にも細かな対応を心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口電話番号を記載、日々の面会時、ご家族の方と会話できる機会を持ち、不満・苦情があった場合はそれを受け止め、速やかに対応出来るように努めている。	入居者の生活状況を毎月お便りにして、家族へ配布しており、運営推進会議や来所時にて、家族から意見や要望などを聞き、運営に反映している。また、家族へのアンケート調査を予定しており、意見を聞く機会として準備をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや月1回の職員会議を行う中で意見交換を行い、できる限り仕事がしやすい環境を整える様に努めると共に業務上のトラブルがあった時は臨時的な会議を開いている。	毎朝の職員ミーティングや月1回の職員会議で職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。また、今後は経営者による職員との個人面談も定期的に行うよう予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や介護職員より現状の勤務態勢について意見を聞きながら、改善に努めている。又、腰痛対策がとれているか、確認しながら出来るだけ2人での介助に変更している。職員が現場での悩み等があった場合は、いつでも連絡をするように伝えて話を聞いていけるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1ヶ月に1回のグループホームの会議の中で職員研修を推奨している。必要に応じて図書の購入もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、他施設に出向いたり、意見の交換をし、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前より、ご家族を通しご利用者様の意見を確認し要望等をしっかり受け止め、ご利用者様主体の介護を提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前よりキーパーソンとなる方を中心に、話し合いに参加できる機会をもうけ、ご家族様の思い、施設に期待する事をしっかり聞き対応している。その際、苦情などはいつでも直接電話などで受ける事を付け加えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時の基本情報やご利用者様・ご家族の方から聞いた話をもとに、その時に必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご家族の代わりとなり、一緒に生活を楽しむ者として、ご利用者様に関わっている。お客様扱いではなく、調理・作業を一緒に行い、日々の生活を豊かに送れるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に協力して頂き、ご利用者様を共に支えていけるようにしている。遠方に暮らしている家族へは、月に何度か電話をし、本人と会話をして頂き、家族との信頼関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者の方が入りやすい声かけ、雰囲気作りを心掛けている。また、ご利用者様の意思を大切にして、なじみの美容室の利用に配慮している。	地元の方が多く、二週間に一度家族が来所したり、知人や友人が訪ねて来たり来訪者が多い。また通院の際にはスーパーや馴染みの商店で買い物するなど関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人一人の個性をしっかりと捉え、孤立せず仲間意識や相手を思いやる気持ちを大切にして、お互いに補い合える生活が出来るよう支援している。(お誕生会での役割等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、何度か家族と連絡を取り、本人様の様子を教えて頂いていたが、他の病院へ転移後は、家族の方から本人の様子については教えて頂く事が出来なかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やちょっとした表情や態度からご利用者様の思いを知り、職員で話し合い、出来る限りご利用者様の意向に沿った暮らしが継続できるように心掛けている。	入居前に本人や家族から生活状況を聞きとり、入居後は入居者情報に記入し、本人から聞いたり、会話や表情を見て思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用申し込み時に、ご利用者様、ご家族様よりライフヒストリーをしっかりと聞き、それを職員に周知し、日々の暮らしのベースとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のアセスメントシートに状態を記入し、ご利用者様の状態を総合的に把握し状態変化があれば朝のミーティングで方向性を打ち出している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの情報と職員からのご利用者様情報を集約し、ご利用者様の意向とご家族の思いを考慮しながら、その人らしさの幅を広げた介護計画作成に取り組んでいる。	本人や家族の意見や要望を聞き、毎月の職員ミーティングで検討して、本人や家族の意向に沿った介護計画を作成している。モニタリングサイクルは3ヶ月毎で、個別の援助計画は毎月担当者が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子(バイタル・排泄・睡眠・食事等)やケアの内容を毎日記録している。その中で気付いた事などを職員間で共有し、必要に応じてカンファレンスを行い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員のみでは対応が難しい行事の支援も積極的に行っている。臨時的病院受診時(車椅子対応の人)車両を速やかに準備している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は不十分。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医が継続され、職員が同行しての受診支援が行われている。訪問診療や訪問歯科受診も行われている。	かかりつけ医は入居前から継続しており、職員が同行して受診し、受診内容は家族と共有している。また、かかりつけ医の訪問診療もあり、適切な医療を受けられる支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師は配置されていないが、1週間に3回パートの看護師が配置されている。加えて、緊急時の対応や来設、また看取りの時は24時間オンコール体制としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による心理的ダメージを最小限にする為、入院中は週2～3回以上、面会し病院看護師と情報交換を行っている。退院については、受け入れ体制が整い次第、速やかに受け入れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	まだ対象者はいないが、終末期における同意書をご利用者様及びご家族とかわし、医療・介護・ご家族との連携が、ご利用者様本位になるように取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた対応は、入居の際に本人や家族に説明し、看取りの方針に同意を得ており、協力医療機関と連携して対応するよう取り組んでいる。	終末期への対応を前向きに取り組んでおり、事業所の看取りの方針に本人や家族の同意を得ているが、チームで取り組むターミナルケアのマニュアル等の作成に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師により、初期の応急手当の研修会を実施し、職員のレベルアップを図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で、災害時の協力体制がとれるようお願いしている。年2回、消防署立ち合いの中で、避難訓練を実施し、地域の方々にも、助け人として参加して頂いている。	避難訓練は年二回、消防署指導の元、運営推進会議委員や地域の方の参加協力により実施している。備蓄は自家菜園もあり、食材を3日以上用意しており、近隣に法人本部もあり、地域の連携体制を築いている。	火災時想定避難訓練は年二回、地域の方の協力にて実施しているが、事業所が海沿いの位置にあるため、今後は更に地域と連携して、津波などへの災害対策の構築に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという気持ちを持って接し、プライバシーに配慮した対応を行っている。	洗面台とトイレが各居室にあり、設備からもプライバシーに配慮している。また、声掛けなども人格を尊重し、プライバシーに気配りした対応である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	伝えたいことや思いを日常生活の中で汲み取り、一人一人の能力に応じて、選択の幅や言葉かけを考え、場面の提供を行う。答えを急がせず待つ姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の流れは決まっている。外出など時間帯によっては希望に添えないこともあるが、出来る限りご利用者様のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るように配慮している。(季節に合った服装・整髪)ひな祭りには、お化粧をして写真撮影し居室に飾ってある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや盛り付けを一緒に行う事で、食事への楽しみが持てるよう支援している。誕生日会は、本人が何を食べたいのかを確認し反映している。季節のお菓子作りを試み、季節感を味わって頂いている。	地元の食材を使用して、利用者と職員と一緒に、準備や調理を行い、片づけも行うなど家庭的な食事となっている。また、イベントの食事会や駐車場で焼肉などもあり、季節を感じる楽しみな支援を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の状態に合わせて、普通食・お粥・スライス食・きざみ食を提供している。水分に関しては、1日1000mlを目標にしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。義歯の取り外し等、ご自分で出来ることは行って頂いている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人一人の排泄パターンを把握し、時間ごとに声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を重視している。おむつ外しに努めている。	利用者の排泄パターンをひとり一人把握して、表情や仕草などのサインを読み取りながら居室のトイレに誘導して排泄の自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のしやすい方には、牛乳など便通に良いとされている食物の提供を促し、排便時に腹部マッサージを行い、自然排便を促している。それでも便秘が解消されない際は、医師と相談しながら、下剤を使用し、出来るだけ身体に負担のかからない対応を心掛けている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の生活リズムを考慮し、時間帯を設定している。また、体調不良などで入浴できない場合は、日を改めて入浴している。	脱衣室は広く、温風装置による温度調節がなされている。入浴椅子は回転座となっており、楽に入浴ができる。利用者は殆ど週3回以上入浴しており、快適な入浴に配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムや習慣、状況に応じて支援している。また、眠れない時は安心する声かけや話を聞いたり、時には添い寝をしたり、ホットミルクを提供する等の工夫を行い、安心して眠れる環境作りに努めています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個別に保管しており、薬についての把握や確認ができる様、薬情シートもファイルしている。日々の状態変化にも注意し、定期的にかかりつけ医に報告・相談している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや縫い物など、一人一人の生活歴や力を活かした役割を担ってもらっている。毎日のレクリエーションを工夫し、笑顔で楽しめるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や健康状態を考慮し、外気浴や散歩などの外出の機会を作っている。桜や菜の花が咲いている季節は、外出の機会を設け、全員が見物できるようにした。	午前中は町内を散歩したり、午後はテラスでの日光浴や畑の作業など日常的に外気に触れている。また、桜や菜の花の花見など計画的な外出支援も行っており、法人本部との合同でのイベント開催なども実施して外出する支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に対し、持参していないと不安がる方には、ご家族と相談して小銭自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に電話をかけられる体制がある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節に合わせた飾りを掲示している。大きな窓から見える、景色で季節感を味わうことが出来る。車椅子でも安全に移動が出来るように工夫している。浴槽を深めに設置し、温泉気分を味わえるようにしている。	共用空間は、採光や風通しもよく、季節を感じる飾りも掲示され、窓からは、雄大な自然が眺められ、廊下も幅広く、ゆったりとした空間である。ペランダにはウッドデッキがあり、いつでも日向ぼっこや外気に触れることができる居心地のよい工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓テーブルやソファがあり、気の合ったご利用者様同士で過ごす事が出来るよう配慮している。居室以外でも一人になれたり、思い思いに過ごせる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや寝具、ぬいぐるみ等を持ち込み、居心地良く安心して過ごせるよう努めている。	居室は、洗面台やトイレ、クローゼット、ベットなども用意され、プライバシーを尊重した設備となっており、馴染みの物を持ち参するなど居心地よく過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、廊下やトイレ等に手すりを設置しており、歩行訓練時や排泄時等、安全に移動出来るように配慮している。		